

令和7年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	79	学校名	浜松城北工業高等学校	校長名	寺田 弘隆
------	----	-----	------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力を高める授業の実践	<ul style="list-style-type: none"> 「授業に、自分の考えを表現する場面や対話する場面が取り入れられていて、理解を深めることができる」と答えた生徒90%以上 授業アンケートで「授業が分かる」と答えた生徒80%以上 教員相互の授業参観100% 観点別評価の着実な実施、具体的な評価規準の作成 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 達成状況として生徒が「実力がついた」と回答していても、本当に実力が付いたのか、生徒の自己評価で判断して良いのか。評議員になってこれまで3回、同じコメントを言っているが、改善されていない。 成果目標が90%であれば数字的には達成していると判断しても良いのではないかと。ただ、具体的なものは見えてこない。 教員相互の授業参観の低さの原因が、学級閉鎖の影響であるというのであれば、授業参観期間を延長すれば良いのではないかと。と思う。
	基礎力の定着、学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 「力がついたと実感できる」と答えた生徒80%以上 国語、数学、英語、理科、地歴公民で基礎力診断テストの分析結果を授業改善に活用 学習時間調査で「1日の学習時間60分以上」と答えた生徒70%以上 「進路を意識した具体的な取組をしている」と答えた生徒80%以上 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 一日の学習時間60分以上とっているが、数字の意味がよく分からない。平均値なのか、平日、休日はどうなのか、具体的なものが分からない。 学習時間が極端に少ない生徒が、%を下げているようなこともあるのではないかと。学年による差や、アンケートを取る時期により結果も違って来るのではないかと考える。 学習習慣という目標は100%にして欲しい。6割しか達成できていないのは寂しい。
	資格取得・検定合格に向けた指導	<ul style="list-style-type: none"> 技能検定合格3級60人以上／2級5人以上 電気工事士合格2種30人以上／1種15人以上 情報技術検定合格3級70%以上／2級50%以上 計算技術検定合格 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 目標を達成していることは大変良い。資格取得と実力を付けることとどちらが大切なのか。資格を取ると将来には優位になるが、それを手段にしていくことが大切である。 評価軸が大切である。勉強だけでなく、多様な評価があっても良い。 多くの資格取得は立派である。

様式第5号

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評 価	意見
		3級80%以上 ・機械製図検定 合格30人以上			
イ	基本的な生活習慣の確立、規範意識の育成、他者を尊重する態度の育成	・無遅刻者の割合85%以上、遅刻延べ数前年度比10%減 ・交通事故前年比半減（特に加害） ・「校内スマホルールを守っている」と答えた生徒95%以上 ・「自分も他の人も大事にしている」と答えた生徒90%以上	B	B	・会社で遅刻をすると周囲の社員に迷惑が掛かる。会社はチームで動くので、チームに対するロイヤリティーが大切である。学校でもロイヤリティーが育まれていくようにしてもらいたい。 ・遅刻は家庭の問題も大きい。家庭で教えてあげれば遅刻も減るのではないかと思う。
	いじめや不登校生徒への相談体制の整備、教職員の対応能力向上	・いじめに関する調査を年2回実施（学習支援システム等の活用） ・「信頼できる先生がいる」と答えた生徒85%以上	A	A	・いじめ調査でSOSが出てくれば、早急に対応し認定をしている。Webと活用した生徒からの訴えもあり、いつでも相談をできるように、チャンネルを多く設定している。
ウ	望ましい勤労観・職業観の育成、系統的なキャリア教育の展開	・「必要な進路情報が入手できている」と答えた生徒85%以上 ・インターンシップに60人程度が参加し、生徒の自己評価75点以上及び企業の評価A（良好）がともに75%以上 ・1次募集での内定率85%以上、年内内定率100%	A	A	・企業が学校に来ることは良いことである。Jタイムスなど進路についての情報に触れさせる環境が多い。
エ	共生意識の醸成、特別支援教育の充実	・交流事業15件以上 ・特別配慮を必要とする全ての生徒について情報共有の場を設ける。	A	A	・共生意識の醸成（浜松特別支援学校城北分校との交流）をこんなに行っている高校は他にない。胸を張っているのではと考える。
	特別活動や部活動を通じた、協調性・積極性・達成感・忍耐力の育成	・「学校生活に達成感・満足感を持っている」と答えた生徒80%以上 ・部活動加入生徒が「部活動に積極的に参加し、やりがいを感じる」と答えた	A	A	・先生がたも大変だが特別活動や部活動は大切である。この中でしか培われないものもある。

様式第 5 号

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評 価	意見
		生徒80%以上 ・休養日及び1日の活動時間を遵守した部活動の割合80%以上			
	読書活動を通じた知性・感性の育成	・「1か月に1冊以上の本を読んだ」と答えた生徒70%以上	A	A	・活字離れが続いている今の時代に、素晴らしい成果だと思う。
	社会貢献活動を通じた社会性・人間関係形成能力の育成	・学校の社会貢献活動等に参加した生徒50人以上	B	B	・環境部の活動を披露する場があると良いと感じる。 ・年に1, 2度、全員がボランティア活動をするのも良いのではないか。
	環境意識の高揚	・「省エネや分別など環境を意識した行動をしている」と答えた生徒85%以上 ・ゴミの分別100% ・課題研究で、生産行為、製品使用時及び廃棄時等にSDGsに繋がる取組を行う。	B	B	・「省エネや分別など環境を意識した行動をしている」が目指したいものなら100%を目指すべきではないかと考える。
	技術系各種競技大会への積極的参加	・各種大会での上位入賞	A	A	・非常に多くの活躍が今年もあってよかった。
オ	外部との連携強化	・学校運営協議会を3回実施（意見等を学校運営に反映） ・浜松型マイスター自走化事業のCEO及び産業実務家教員と協力し、浜松市や地元企業、大学等との連携を拡げる。	A	A	・地元企業と多くの関りを持ち、外部との連携はしっかりできている。
	中学校への広報、中高連携の強化	・一日体験入学、学校公開への参加者の前年度比増 ・HPリニューアル、Instagram等の充実と更新頻度の向上 ・志願者数の増加	B	B	・中学校の生徒数も減ってきている現状はあるが、もっと本校の良さを知ってもらいたい。
	保護者への情報提供	・学習支援システムの生徒・保護者の登録率100%、学校の情報が分かりやすく伝えられていると答えた生徒・保護者が90%	C	C	・以前はGoogleクラスルームを使っていたが、現在はより安全性の高いC-ラーニングを使用している。子供からの情報は得にくいですが、C-ラーニングがあるので、そこから学校の情報を得ている。

様式第5号

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評 価	意見
		以上			・生徒が活用していないのは、今の子は興味のない、ものには関心がないのではないか。また、利便性はあるが、使いにくいという意見もある。
	信頼される事務室	<ul style="list-style-type: none"> ・要望等への対応100% ・会計を担当する教職員が円滑に業務を遂行 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・信頼される事務室とは何を指しているか分からなかったが、漏れがない適切な事務処理を行うことで、信頼される事務室にしていくことだと知った。
カ	みんなで確実かつ円滑処理	<ul style="list-style-type: none"> ・出張関係書類等の漏れのない記載と期限内の提出 ・情報漏洩なし ・ICT活用、ペーパーレス化により、業務が改善したと答えた教職員70%以上 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・情報漏洩なしは結果論である。どういう方法を対策として取っているかが大切である。 ・校内のiPadの貸出しをやめた。学校メールはbccの利用や鍵の掛かる机の用意などできる範囲で手段を考えている。 ・ペーパーレス化が進んでいるが、それが業務改善につながりにくい。
	時間外在校時間の削減、休暇取得で休もう	<ul style="list-style-type: none"> ・前年同月時間外在校時間を5%削減 ・夏季休暇の完全消化 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・なかなか業務を減らすのは難しいのではないか。 ・労働に対してその対価を支払うべきではないか。